

第2回研究例会 グループ討議のまとめ

当日は出席者を3つのグループに分け、司会と記録の人を決めて、いくつかのテーマを選び情報交換と討議をしました。その記録を簡単にまとめました。

1、 予算について

私学はやはり、予算は100万を超えるところも多く、その使い方も司書の裁量権に大きくゆだねられている。公立はおよそ20万～40万くらいで、PTAからの支援が大きいところもある。

2、 司書、図書館担当者の勤務の現状

私学では専従の教員のほかに非常勤の司書を雇っているところもある。

公立ではかつての司書（実助）はほとんど教科との兼務となり、負担が大きくなっている。ラベルはり、図書活動などをパート職員をお願いしている例もある。ボランティアを呼びかけてみることも考えてみてはどうか。司書をめざす大学生の実習場所として高校図書館に来てもらい、手伝ってもらおうなど。

3、 図書委員会

各校でさまざま。文化祭前だけの活動や、毎日の活動など。内容もカウンターから蔵書点検、ブックトークなど。独自のしおりを作って、借りた人にあげる取り組みも。

4、 オアシス、特別支援教育と図書館

クラスに入れない生徒を図書館でみている。一人で過ごせる場所としての役割も図書館には求められる。今後は図書館登校なども考えられる。実際にその例もあるが、出席扱いになった例はない。

5、 図書管理システム

私学は各校独自のシステム（ノート記入もある）で管理しており、併設の大学の図書館も検索可能。

公立はシステムはすでに全校導入されており、クラウドで、他校の図書を検索できる。図書館にある本はバーコードをはったが、教科など別の場所にあるものは未整備のところもある。

6、 図書選定

選定の基準は各校とも模索している。生徒や先生のリクエストにもこたえるが、利用増を増やすためだけであっていいのか。学校のなかの図書館という考え方が大事。外部の目線も参考にしながら、学校図書館としてどうそろえるか。4人の先生に聞いて3人が購入OKなら購入する。

漫画は「あさきゆめみし」や歴史ものなどを置いている学校おおい。ほかに、「スラムダンク」「ブラックジャック」なども。

ライトノベルは生徒のリクエストが多いが、どこまでいれていいか悩む学校が多い。西尾維新など、ラノベとそうでないものの差もなくなっている。山田悠介は人気だが、残虐性を指摘もされる。呼び込みには使えるが、ラノベが好きな生徒ばかり来るようになるおそれもある。

7、 当日アンケートより

例会を終えてのご感想をいただきました。ほとんどのかたから、参加してよかったとのありがたいお言葉を頂戴しました。

このような会を今後も継続して設けてほしいとの声も数多く頂戴しました。地区ごとにやっていた集まりもなくなってしまったところもあり、情報交換する場を研究会がもうけてほしいのご意見もありました。また、次回は統一したテーマ、たとえば「図書館たより」「季節の展示」などにして、参加者が自校のものを持ち寄って発表などにしてはなどのご提案もいただきました。

